

新年に 年頭の

東通村議会議長
丹内 俊 範



新年明けましておめでとうございます。
村民の皆様におかれましては、平成二十九年の輝かしい新春を心も新たに夢と希望、さらには、ご家族の幸せを願ってお迎えのことと謹んでお慶び申し上げます。

また、平素より村議会活動並びに村政運営に対しまして、温かいご理解とご協力をいただいておりますことに心より厚くお礼申し上げます。東通村議会を代表いたしまして、新年のご挨拶を申し上げます。

昨年を顧みれば、新たな議会構成から一年を経過し、さらなる我が村の将来を想い、志を高くしております。した花部悦男氏、二本柳貞一氏の仲間二名の現職議員が逝去されました。痛恨の極みであります。ここに衷心よりご冥福をお祈り申し上げます。

また、昨今の我が国を取り巻く環境は、国内外を問わず地球規模的な非常に目まぐるしい変化が見受けられます。国際社会の枠組みや各国の政権交代など予測が不可能と言えるほどの状況にあります。

わが国では、熊本地震や鳥取地震、東北地方と北海道には、過去に例のない太平洋からの台風上陸で、それぞれ甚大な被害が発生しました。社

会的現象や自然環境的現象により、さまざまな影響を受けております。

自主財源に乏しい我が村は、東北電力東通原子力発電所の再稼働の遅延、東京電力東通原子力発電所の建設再開の見通しがたらず、村経済に甚大な打撃を与えています。

加えて、一昨年に同様、村の一次産業の基幹である水産業が不振となり、特にイカ漁が過去に例のないほどの大不振となり、同じ漁業者として切迫感を感じに受けざるを得ない日々を過ごし、我が村の水産業の行く末に強い危機感を抱いたものであります。

このような状況が続くことになれば、農林水産物の食料供給、国土保全など自然豊かな故郷を守り、村民生活を支えることに全力を傾注してきましたが、地理的条件の不利から若者が減少し、過疎化、高齢化が歯止めなく進み、村の存続が危ぶまれるものであります。

この人口減少の問題は、国全体が取り組む問題であり、「地方創生」によって、その克服を図ることが国・地方を通じての最重要課題であります。

財政基盤の脆弱な村が、腰を据えてこの「地方創生」に取り組むためには、限られた財源をどのような施

策に充てるべきか、村議会といたしましては議員一人ひとりの責務を全うし、議会の場で議論を尽くし、将来の東通村のあるべき姿をしっかりと見定めて村政に提言していくのが、私ども議員の重要な使命であると考えております。

こうした中、昨年は、「下北ジオパーク」認定や尻屋埦灯台の「恋する灯台」認定など喜ばしい出来事もありました。これらを最大限活用し、村が主体となつて観光などを盛り上げ、広域的な地域の活性化に役立てる必要があるものと認識するものであります。

村づくりは、時代の潮流とともに斬新な発想を必要としており、旧来の村づくりでは未来を切り拓いていくことはできません。私ども議員にも新たな時代感覚と崇高なビジョンを持つて一翼を担っていくことが求められています。

しかしながら、村づくりの主役は村民の皆様です。村民の生活拠点を念頭に、住み良い村づくりのために、さまざまな村政の課題解決に向けて、全力を尽くしてまいります。

決して、次代を担う子どもたちに残すツケを残してはいけません。私どもは、責任世代としての役割をしっかりと担い、村民一人ひとりが誇り高

く、「この村に住んで良かった」と実感できる村づくりに、これからも全力を傾注してまいります。

村議会は、議員全員が我が村の発展を願って、常に議会活動が可能な状態となる議会づくりに取り組み、議会運営の充実、活性化を目指しているところであります。

加えて、地方分権改革の進展に伴い、地方自治体の自由度が拡大することと比例して、村民代表である議会の果たすべき役割と責任はますます重くなっております。このことを踏まえ、議会が団体の意思決定及び執行機関の監視といった使命を全うするための権能強化に努めてまいります。

私ども議員は、これからも、村民の皆様方の声に耳を傾け、それぞれが自主・自立の精神をもって、村の振興を図るため、今後とも議会改革・活性化に努め、村民の信託に十分応えられる議会を構築していく所存でありますので、村民の皆様には今後とも、変わらぬご支援とご協力を心よりお願い申し上げます。

ここに、村民の皆様のご多幸とご繁栄をお祈りするとともに、平成二十九年が我が村にとって、真なる飛躍の年であることを祈願し、新年のご挨拶といたします。